

不撓不屈

ふとうふくつ

五感を鍛える

東亜工機（佐賀県鹿島市）の主力製品は、船舶用ディーゼルエンジン部品のシリンダーライナー。経営は主要取引先である造船会社の景況に大きく左右される。

そのため社長の光武渉は、コア技術である鋳物加工技術を発展させることで新たな収益源の確保を目指している。そこで新事業の立ち上げに対応

東亜工機

②

技能伝承へ道場開設

できるよつにと進めるのが技能伝承だ。

汎用旋盤教育

同社は2011年、横田工場（同）に技能習得道場「錬磨」を開設した。光武は「人間は五感が大切。目で見て、耳で聞き、機械の振動を感じる。高い次元の作業につなげるため訓練の場が必要」と設立の目的を説明する。道場では「現代の名工」に選ばれた旋盤工など同社のトップ技術者が指導する。若手技術者は国際職業訓練競技大会や技能グランプリでの上位入賞に向けて汗を流す。

技術教育では、モノづくりの原点に返り、汎用旋盤やフライス盤の操作を身に付ける。実際の生産現場ではロボット化が進み、工作機械は数値制御（NC）旋盤やマシニングセンター



1953年当時の機械工場

「組めない」とし、者が積極的に技能検定を汎用旋盤などでの受ける社風があり、会社教育が知識の幅をも推奨する。現場で働く広げると期待する約220人のうち100人。また、後任者に人以上が技能検定1級以上を保持する。光武は「鍛錬を進め、積極的な女性登用を目指す。光武は女性技術者を「段取りがうまく、効率よく仕事を進める」と高く評価する。困難なことが発生しやすい多様な家事を家庭でこなしている能力が、職場でも発揮されるのではないかとみている。「女性は将来の力になる」と期待は大きい。（敬称略）

将来の力女性登用進む

（MC）などが主流。製品の評価に大きく影響するのは、手作業よりも加工程序というものが主流。製現実だ。ただ光武は「プログラマーは自身の知識や経験の中でしかプログラムを

技能検定を推奨

また東亜工機には技術

（敬称略）